

氷川町



藤本 一臣 町長

氷川町は、総面積33.3 平方kmの小さな町ですが、熊本県のほぼ中央に位置し、広い平野と海、山があり、農産物が豊富です。スマートICやJR線等の交通アクセスも良好なことから、今後はベッドタウンとしての発展が期待されています。

これからも「小さなまちで、大きな幸せを感じる『田園都市・氷川』」を掲げ、広域交通の利便性や医療・教育などの多様な機能を備えたコンパクトなまちをイメージし、住民の皆さまが安心して暮らすことができ、幸せを実感できる持続可能な氷川町を目指します。

寄付御礼

- ・贈呈式開催(首長出席、寄付額100万円以上)
- ・感謝状贈呈(寄付額10万円以上) ・地公体広報誌掲載 ・HP掲載 ・視察受入
- ・功労者表彰推薦 ・紺綬褒章推薦(寄付額1000万円以上)
- ・その他

人口	
総人口	11,094人
男	5,083人
女	6,011人
世帯数	3,932世帯

面積	
総面積	33.36km ²
農用地	15.50km ² (46.50%)
森林	3.39km ² (10.2%)
宅地	3.01km ² (9.0%)

産業構造	
第1次産業	3,556(13.7%)
第2次産業	2,847(11.0%)
第3次産業	19,519(75.3%)

生産総額: 百万円



交通アクセス	
■氷川町役場まで	
九州自動車道 松橋ICから	約15km
宇城氷川SICから	約4.9km
JR 有佐駅から	約3.1km
阿蘇くまもと空港から	約42km

人口構成比	
15歳未満	11.1%
15~64歳	49.2%
65歳以上	39.7%

教育機関	
小学校	3校
中学校	2校
高等学校・高専	—
大学・専門学校他	—

※データは令和4年7月発行、熊本県市町村要覧をもとに作成しております。

氷川町まち・ひと・しごと創生推進計画

本計画における4つの基本目標

1 基本目標 地域経済の礎となる地域産業が興隆し魅力ある雇用があるまち
 地域産業を強化するため、多様な就労環境の整備や農業の6次産業化による新たな雇用の創出、異業種間連携による地域の人材育成に取り組めます。

2 基本目標 結婚～子育ての場として選ばれるまち
 子どもを産み育てやすい環境づくり、仕事と子育てを両立しやすい環境づくり、地域が一体となって子育てを見守り応援する環境づくりに取り組めます。

3 基本目標 地域の宝を活かした町内外の交流が盛んなまち
 地域資源を活かした催しやツーリズム事業の活発化、町の魅力発信や地域と連携した良好な生活環境の創出により、関係人口拡大と移住定住を促進します。

4 基本目標 誰もがくらしやすく心豊かに過ごせるまち
 住宅需要に対する受け皿づくりや高齢者等への生活サポート、町民の健康づくり、地域防災の強化に取り組み、町民の安全・安心な暮らしを支えます。



氷川町

新しい民間企業の技術・ノウハウを積極的に活用したい政策課題・取り組み

1 次代を担う人材の育成

本町では、すべての小中学校が学校情報化優良校に認定されているほか、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動による「地域とともにある学校づくり」は、令和4年度に県の先進的地域(モデル地域)に指定されました。

企業様へ
次代を担う子どもたちのため、本町ではこれからも特色ある教育活動を推進していきます。



CSの日には100人を超える関係者が視察

2 地域交通システムの検討

高齢者の中には、公共交通機関の利用が難しく移動手段は専らタクシーという方が少なくありません。町では、それら住民の移動支援と外出機会創出のため、後期高齢者などを対象にタクシー料金の助成事業を行っています。

企業様へ
「玄関から玄関までの移動支援」をコンセプトに、本町の規模に見合った交通手段の確保について検討が必要となっています。



移動支援(コミュニティバス)のイメージ図

3 空き家の有効活用

本町では、空き家の有効活用と定住促進による地域活性化のため空き家バンク事業を実施しており、他の自治体と比較して手厚い補助もあって年間10件を超える登録をいただいておりますが、空き家の数は依然として多い状況です。

企業様へ
連携する大学や企業のアイデア・知見も参考にしながら、空き家の有効活用について幅広い検討を行います。



学生による空き家調査の様子

4 「スマート田園都市、ひかわ」の実現

本町では、DX推進基本方針における基本理念に「みんなに寄り添うスマート田園都市、ひかわ」を掲げ、暮らしの向上、町の発展、スマート行政の実現など、様々な課題に対してデジタル技術を活用し、町のさらなる発展を目指しています。

企業様へ
これから行政や地域のDXを推進していくため、各分野においてICT、デジタル技術を活用し業務改善や課題解決に向けた取組みを進めます。



タブレット端末を活用した議会

重点プロジェクト

魅力と活力ある産業の振興

〈SDGs〉関連するゴール



- 総事業費** (関連事業ごとに計上)
- 数値目標**
- 物産館売上実績額……………2.6億円
 - 新商品(特産品)販売実績額…… 83万円

背景・現状の課題

本町の基幹産業は農業となっており、特産品には吉野梨や晩白柚をはじめとする柑橘類や、平野部で生産されている和鹿島いちごなどがありいずれも県内有数の産地となっていますが、地域の高齢化・人口減少が農業の維持に影響を与えています。

その中でも後継者問題は本町の農業が抱える大きな課題の1つとなっており、農業技術や知識の継承が困難となるほか、市場のニーズに対応できる若手農業者の減少や労働力不足、耕作放棄地の増加などが懸念されています。



いろいろな農作物がとれる肥沃な農地

事業の目的・内容

本町の農業が将来にわたって存続、発展していくためには担い手の確保が課題です。そのためには所得の向上・安定が必要であり、1次産業の高度化、農業の法人化、輸出に特化した販路の確保などを推し進めることが重要となることから、特産品の海外への販路拡大、地域資源を活用した加工品開発など6次産業化を推進し、需要増加による生産規模の拡大や農業所得の向上、新規就農者の増加を図ります。

- (1)元気な地域産業の育成
 - 物産品販売フェア ●海外販路拡大事業
 - 中小企業振興事業 など
- (2)持続可能な地域産業の育成
 - 新規就農支援事業 ●農業法人化支援事業
 - 農業収入安定化事業
 - 店舗リフォーム支援事業など



農産物の販売拠点「道の駅電北」

寄附の具体的なメリット

本町が抱える課題の解決に向けた取組みに企業がお持ちの知見を活かすことで、産業振興による地域の活性化や里山の環境保護に貢献いただくことができます。

寄附申出書の事業名選択時は「地域産業の興隆」を選択してください。

重点プロジェクト

安全で快適な生活環境の整備

〈SDGs〉関連するゴール



- 総事業費** (関連事業ごとに計上)
- 数値目標**
- 20～49歳の転出超過数 ……3人
 - 移住相談件数…………… 12件

背景・現状の課題

本町は自然豊かで穏やかな生活がある一方で、国道3号やJR、九州自動車道の宇城氷川スマートインターチェンジなど広域交通の利便性があり、これらを活かしコンパクトでありながら多様な機能を備えたまちづくりを行っています。本町には高等教育機関がなく就職先も少ないことから10代後半から20代前半にかけての転出が大きくなっています。

若い世代や子育て世代などの転出を抑えるため、上記のような立地特性を活かしたベッドタウンとしての住環境の整備や、市街地とは違った生活環境の維持に住民と行政が協働で取り組む必要があります。



宇城氷川スマートインターチェンジ

事業の目的・内容

活気あるまち、安定し存続するまちを目指し、若い単身者、子育て世代が住みやすい・住みづづきたいと思う住環境の整備や、子どもを安心して産み育てられる地域と連携した子育て環境の充実、豊かな自然や歴史との中で培われた地域の魅力を活かした質の高い学習環境づくりに取り組みます。

- (1)安心して産み育てられる子育て支援
 - 子ども医療費助成事業
 - 学校給食費助成事業 など
- (2)地域と連携した子育て環境ときめ細かな学習支援
 - 宿泊通学体験事業
 - 郷土愛を育む氷川学習 など
- (3)住宅整備・利活用の促進
 - 民間活用住宅整備推進事業
 - 空き家活用事業 など



自然に恵まれた子育て環境があります。

寄附の具体的なメリット

子育ての場として選ばれる町、誰もがくらしやすく心豊かに過ごせる町を目指し取組みを進めています。企業には、小さな町ならではのまちづくりに幅広い分野で貢献いただくことができます。

寄附申出書の事業名選択時は「安全で快適な生活環境の整備」を選択してください。

●その他の寄附事業に関しましては、最寄りの肥後銀行までお問い合わせください。